

## 種子植物

### (現状の解明度)

広島市全体を対象とした種子植物の調査は、1936(昭和11)年の「広島市植物便覧」以降まったく行われていない。「広島市稀少<sup>き</sup>生物調査報告」では、141科1,100種の種子植物が市域から記録されている。これは、広島県内の植物研究者12名による過去20年余りの調査記録と、1985～1986年の2年間の調査結果に基づいたものである。

その後の調査研究を含めると、文献上ではこれまでに20,207産地で1,998種が記録されている。さらに今回の現地調査結果を加えると市域では25,796産地で2,031種(植林、帰化を含む)が報告されたことになる。

この数値は、1997年にまとめられた「広島県植物誌」の県内の生育記録2,206種(内1,861種が自生)に迫るものであり、市域の種子植物相はかなり解明されているかに見える。しかしこれまでの調査は断片的であり、今回の短い調査期間内でも33種の広島市新産種が記録されたことでも分かるように、市域の植物相の解明は不十分なままといわざるを得ない。

### (選定候補種の抽出過程)

「広島市稀少<sup>き</sup>生物調査報告」の選定種に、環境庁レッドリスト、広島県版レッドデータブック」に選定された種を加えたりリストと、これまで市域で自生記録がある種のリストを対照し、214種を抽出した。この際、文献上の記録のみで証拠標本を確認できなかった種は除いた。つぎに近年の生育状況や生育個体数に基づいて35種を除き、179種を候補種とした。

候補種の絞り込みは、現地調査によって生育個体数、分布及び生育状況の近年の変化を調べ、これをもとに今後の絶滅危険性の程度を判断する手順で行った。

また、広島市で初めて記録された種でも、同様の手順で該当種を抽出し、候補種に追加した。

### (現地調査結果)

種子植物は、選定候補種が多数あったため、調査対象を選定候補種に絞り、その生育状況を調査した。

現地調査は、これまでに候補種が観察された地域及び観察される可能性の高い市内46地域と22群落を中心に行った。しかし、調査委員が少なく調査期間も短いため、すべての地域あるいは群落を調査することはできなかった。また、1999年6月の集中豪雨により佐伯区、安佐南区で調査候補地そのものが消滅したり、近づけないなどの理由で調査不可能な場合もあった。

現地調査の結果、絶滅とした7種のほか、ミクリ、クマガイソウなど13種は自生を確認できなかった。これらはすべて市域での生育地がごくわずかしかなかった種であり、掘り取り(クマガイソウ、キエビネなど)、開発(ミクリ、ヌカボタデ、キン

ランなど)、着生木の枯死(ムギラン)、植生変化(オキナグサなど)が確認できなかった原因と考えられた。

一方、タシロラン、ミズトンボ、ホンゴウソウ、ヒナノシヤクジョウなど33種を広島市新産種として記録した。これらはごく短期間しか地上部を現さないもの、自然度の高くない林中に生育するもの、放棄水田にみられたものなどであった。とくに市北部の放棄水田は、湿地として植生が回復していた。

(選定結果)

78種を選定した。内訳は絶滅7種、広島市の絶滅のおそれのあるもの63種(絶滅危惧15種、準絶滅危惧23種、軽度懸念11種、情報不足14種)、環境指標種8種である。選定過程では、調査結果が行政に及ぼす影響を考慮し、不用意に絶滅のおそれのあるものに分類することを避けた。すなわち、基本的には市域の個体数及び生育地数がかなり少ない種であっても、環境庁や「広島県版レッドデータブック」で選定されていないものは、今回は絶滅のおそれのあるものとせず、環境指標種に分類した。また、絶滅のカテゴリ区分の選定要件は市域での自生が確認されない期間が10～20年となっているが、種子植物では30年以上の種を絶滅に、30年未満の種を情報不足に分類した。したがって、情報不足とした種のなかには、絶滅の危険度が高いか、すでに絶滅してしまった可能性がある種が含まれている。

コウヤマキは、自生状態に近い生育地もあるが自生と確認されなかったため情報不足とした。

(選定しなかった種とその理由)

「広島市稀少生物調査報告」では159種が選定されているが、その内115種は今回の調査で選定種としていない。

これは、ナンゴクウラシマソウやコ克蘭のようにその後の調査で生育数が多いことが判明したものや、「広島市稀少生物調査報告」以降に確立したレッドデータブック種の定義を優先して市域での希少性や絶滅危険度を高く評価しなかったものがある。

「広島市稀少生物調査報告」の選定種で、今回選定しなかったものは、つぎのとおりである。

アケボノシュスラン、アマナ、イケマ、イズセンリョウ、イタチガヤ、イチイガシ、イチリンソウ、イナモリソウ、イヌブナ、イワウメヅル、イワタバコ、ウスギヨウラク、ウツクシザサ、ウマノスズクサ、ウメガサソウ、ウメバチソウ、ウラジロイカリソウ(現在はコイカリソウ)、エイザンスミレ、オオイワカガミ、オオカモメヅル、オオバチドメ、オオハンゲ、オニノヤガラ、オニルリソウ、オモト、カギカズラ、カシワバハグマ、カツラ、カヤラン、カラタチバナ、カリガネソウ、カワラハンノキ、カンサイタンポポ、キジョラン、ギンリョウソウ、ギンレイカ、クサボタン、クサレダマ、クモキリソウ、クロガネモチ、クロソヨゴ、クロバイ、コウヤミズキ、コケイラン、コクサギ、コ克蘭、コシオガマ、コショウノキ、コバノフユイチゴ、コヤブ

ラン, サイハイラン, ササバギンラン, ササユリ, サツマイナモリ, サツマスゲ, サワギキョウ, サワギク, サワシロギク, サンヨウアオイ, シオクグ, ジガバチソウ, シマカンギク, シライトソウ, シロバナショウジョウバカマ(現在はツクシショウジョウバカマ), ジロボウエンゴサク, ジンジソウ, スズサイコ, セトノジギク(現在はノジギク), セリバオウレン, タヌキマメ, タマミズキ, ダイセンミツバツツジ, チュウゴクザサ, デワノタツナミソウ, ナニワイバラ, ナベナ, ナメラダイモンジソウ, ナンゴクウラシマソウ, ニシノヤマクワガタ(現在はサンインクワガタ), ネコノチチ, ノハナショウブ, ハイノキ, ハクサンハタザオ, ハグロソウ, ハスノハカズラ, ハマウツボ, ハママツナ, ヒトツボクロ, ヒノキバヤドリギ, ヒメウツギ, ヒメナベワリ, ヒメバライチゴ, ヒメユズリハ, ブナ, ベニドウダン, マルバウツギ, マルバコンロンソウ, ミズギボウシ, ミソナオシ, ミツデカエデ, ミツバベンケイソウ, ミヤコアオイ, ミヤマウズラ, ミヤマカタバミ, ミヤマヨメナ, モウセンゴケ, モッコク, ヤシャダケ, ヤマエンゴサク, ヤマグルマ, ヤマラッキョウ, ヤマルリソウ, ユリワサビ, レンゲツツジ

#### 種子植物の選定種

##### 絶滅・絶滅

カワツルモ

イトクズモ

ナヨテンマ

ハナナズナ

タコノアシ

カンコノキ

アキノクサタチバナ

##### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧<sup>く</sup>

ホンゴウソウ

オモゴウテンナンショウ

ホソバナコバイモ

ヒナノシャクジョウ

サギソウ

ウチョウラン

ヒナラン

トキソウ

タシロラン

ツチトリモチ

カザグルマ  
ヤマシャクヤク  
ツルマンリョウ(ツルアカミノキ)  
フジバカマ  
ウラギク(ハマシオン)

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧<sup>く</sup>

コウキヤガラ  
アンペライ(ネビキグサ)  
キバナノアマナ  
カタクリ  
ミズトンボ  
エビネ  
ナツエビネ  
セッコク  
マメツタラン  
クモラン  
キミズ  
アズマイチゲ  
ユキワリイチゲ  
ツメレンゲ  
ユキヤナギ  
イワガサ  
ツゲ  
ナツアサドリ  
ゲンカイツツジ  
ホンシャクナゲ  
シロバイ  
ムラサキミミカキグサ  
ウスバヒョウタンボク

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

ツルマオ  
オガタマノキ  
ナガミノツルキケマン  
アテツマンサク  
シイモチ  
ハマサジ

---

ミゾコウジュ  
イヌノフグリ  
スズムシバナ  
ヤマヒョウタンボク  
キキョウ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

コウヤマキ  
ミクリ  
クマガイソウ  
キンラン  
キエビネ  
ムギラン  
ヌカボタデ  
ヒロハマツナ  
オキナグサ  
コイヌガラシ  
イヌハギ  
ウドカズラ  
ミズマツバ  
カワヂシャ

環境指標種

ヌマガヤ  
トベラ  
マルバシャリンバイ  
セトウチウンゼンツツジ(シロバナウンゼンツツジ)  
キシツツジ  
ハマゴウ  
アオヤギバナ  
フクド(ハマヨモギ)

種子植物

絶滅・絶滅

10～20年間確認されていない(種子植物では30年以上)

カワツルモ(ヒルムシロ科)

*Ruppia rostellata*

海水の浸入する潟や池に群生する沈水性の多年草。本州，四国，九州に分布。茎は50cm以上に達し，よく分枝する。花は6～8月。果実はゆがんだ卵形で，先端はくちばし状。

戦前には南区からの報告があるが，現在は市域に，本種の生育が可能な清澄な汽水域は存在しない。



種子植物

絶滅・絶滅

10～20年間確認されていない(種子植物では30年以上)

イトクズモ(ヒルムシロ科)

*Zannichellia palustris* var. *indica*

汽水域に沈水する小形の多年草。北海道～九州に分布。茎は10～15cm，地下茎の節から直立する。果実は三日月形で，長さ2mmくらい。

1965年に南区東雲しのめのハス田から報告されているが，そこは住宅地になった。その後，市域から報告がなく，埋め立て等により生育環境もなくなっている。



## 種子植物

絶滅・絶滅

10～20年間確認されていない（種子植物では30年以上）

### ナヨテンマ（ラン科）

*Gastrodia gracilis*

常緑広葉樹林下に生える腐生植物。本州（千葉，静岡，広島県），四国，九州に分布。高さ10～60cm。全体に薄茶色。花は6～7月。

安佐北区可部町南原峡<sup>なばら</sup>で1934年に採取されて以後確認されていない。南原峡<sup>なばら</sup>にはダムができ周辺部も開発されつつあるので，生育地がすでに破壊されている可能性がある。



## 種子植物

絶滅・絶滅

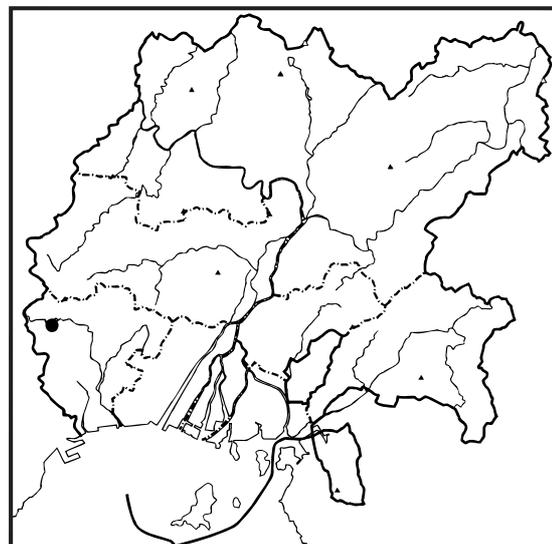
10～20年間確認されていない（種子植物では30年以上）

### ハナナズナ（アブラナ科）

*Berteroella maximowiczii*

平地に生える越年草。本州（広島，岡山県）に分布。全体に星状毛があり，茎は高さ20～60cm，上部でよく枝分かれする。花は5～10月，花弁は4枚で淡紅色。

戦前には西区，安佐南区，佐伯区から記録があるが，市域では戦後確認された確実な記録がない。県内では戦後三段峡から採取されたが，現状は不明である。



種子植物

絶滅・絶滅

10～20年間確認されていない（種子植物では30年以上）

タコノアシ（ベンケイソウ科）

*Penthorum chinense*

湿地に生える多年草。本州，四国，九州に分布。茎は円柱形で高さ30～80cm。茎頂に数本の枝が放射状に伸び，内側に黄白色の花が並んでつく。10月の終わりに「たこの足」のような形の果実をつける。

1930年代に南区宇品で記録されているが，絶滅したと考えられる。県内では福山市に少数残っている。



種子植物

絶滅・絶滅

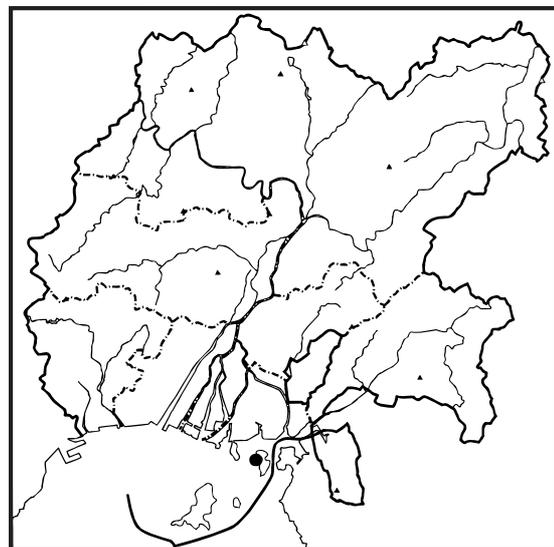
10～20年間確認されていない（種子植物では30年以上）

カンコノキ（トウダイグサ科）

*Glochidion obovatum*

海岸に生育する落葉低木。本州(近畿<sup>き</sup>以西)～沖縄に分布。枝には鋭いとげがある。花は6～8月に開花，緑色で小形。果実は秋に裂開し，種子は朱赤色。

南区金輪島に2本確認されていたが，1998年の調査では，道路拡張で消失していた。温暖な海岸に分布するので，似島などで発見される可能性がある。



## 種子植物

絶滅・絶滅

10～20年間確認されていない(種子植物では30年以上)

### アキノクサタチバナ(ガガイモ科)

*Cynanchum multinerve* var. *kiyohikoanum*

多年草で、茎は直立し高さ約30cm。花は茎の頂端につき、紫黒色、直径1.5cmくらい。東区温品の<sup>がま</sup>蝦蟇ヶ峠で採取された標本に基づいて記載された。

広島市で1932年に発見された後、採集された記録がない。<sup>がま</sup>蝦蟇ヶ峠付近は、まだ、あまり開発されていないので、再発見の可能性はある。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

### ホンゴウソウ(ホンゴウソウ科)

*Sciaphila japonica*

小型の腐生植物。本州(静岡, 京都, 兵庫, 広島, 山口県), 四国, 九州(長崎, 鹿児島県), 沖縄に分布。高さ3～5cmで、全体が暗紫色を帯びる。花は8月上旬。

1999年に、安佐北区のコナラ二次林で確認された。谷沿いの湿った地上で、タイ類のクモノスゴケなどの中に生育しており、個体数は少ない。



### 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

オモゴウテンナンショウ（サトイモ科）

*Arisaema iyoanum*

山地の木陰や溪流沿いの斜面に生える多年草。本州（中国地方西部），四国に分布。高さ12～80cm，マムシグサに似るが葉は1枚。花は5月。

安佐北区で記録されているが，現状不明。今回の調査では，同区の別地点で少数個体を確認。林道工事など，渓谷の開発が減少要因となる。



### 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ホソバナコバイモ（ユリ科）

*Fritillaria amabilis*

林縁などに生える多年草。広島県では中・古生層の地域に限られる。本州（中国地方），四国，九州に分布。高さ5～15cmで，3～5月ごろ，輪生した葉の先に筒型の花を咲かせる。

安佐北区の4カ所で記録されている。森林の成長に伴い消滅しそうな所や，道路の改修で個体数が減っている所がある。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ヒナノシャクジョウ (ヒナノシャクジョウ科)

*Burmannia championii*

小型の腐生植物。本州(関東地方以西)~沖縄に分布。全体白色で、茎の下端がふくれて地下茎を形成する。花は8~10月、茎の先端に数個集まってつく。

1999年に、安佐北区のコナラ二次林で、クモノスゴケなどの中に100個体以上が確認された。本種はきわめてまれな腐生植物で、全国的な分布も十分に把握されていない。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

サギソウ (ラン科)

*Habenaria radiata*

湿原に生える多年草。本州，四国，九州に分布。高さ15~40cm。花は8月ごろ，白色の唇弁は3裂し白鷺シラサギが翼を広げたように見える。

安佐北区の2カ所で記録されている。個体数は少なく，掘り取り，開発により減少している。栽培や増殖，移植は容易で，湿原保全のシンボリックな種であるが，遺伝的変異への配慮が必要である。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

### ウチョウラン（ラン科）

*Orchis graminifolia*

岩壁上に生える多年草。本州，四国，九州に分布。草丈は10～20cm。6～8月に，茎の先に淡い紅紫色の花を数個つける。

佐伯区で記録されているが，近年の詳細な状況は不明。生育適地が限定され，移植による保全は不可能である。採取圧が高い。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

### ヒナラン（ラン科）

*Amitostigma gracile*

樹林下の明るい岩上に生える多年草。本州（愛知県以西），四国，九州に分布。茎はやや斜めに立ち，高さ5～15cm。6月ごろ淡紫色の小さな花をつける。

安佐北区の数か所で記録されており，最近10年間に徐々に減少している。採取圧が高いが，崩落防止の金網で守られているところもある。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

### トキソウ（ラン科）

*Pogonia japonica*

日当たりの良い湿原に生える多年草。北海道～九州に分布。高さ10～30cm。5～7月に茎の先端に淡紅色の花を1個つける。

今回の調査で、安佐北区で初めて確認された。古い休耕田にミズトンボなどとともに生育しており、安定しているが、訪れる人によって踏み荒らされている状態である。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

### タシロラン（ラン科）

*Epipogium roseum*

常緑樹林下に生える腐生植物。本州（関東地方以南）、九州に分布。高さ20～50cm。茎はやや黄色みを帯びた白色で、6月～7月にかけて淡褐色の花を多数つける。

今回の調査で南区で確認され、県内初記録となった。薄暗い樹林下に十数個体が生育している。上部に車道があり、ごみの投棄などによる環境悪化が懸念される。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ツチトリモチ（ツチトリモチ科）

*Balanophora japonica*

暖地の樹林下で、ハイノキ属の根に寄生する多年草。本州（紀伊半島，広島県），四国南部，九州南部に分布。高さ7～10cmぐらい，11～12月ごろ，橙赤色の花序が見られる。

南区に自生地があり，少なくとも最近10年間は変化がみられない。林床が踏み荒らされたり，ごみ投棄，掘り取りの危険がある。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

カザグルマ（キンポウゲ科）

*Clematis patens*

林縁や湿地付近の陽地に生える落葉性のつる植物。本州，四国，九州に分布。茎は褐色で木化する。5月ごろ，径7～12cmの花をつける。

安佐北区の数か所で記録されている。いずれも道路，線路，川岸などに面した林縁部である。ほかのつる植物の繁茂，道路の改修等が減少要因となっており，採取圧も高い。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ヤマシャクヤク（キンポウゲ科）

*Paeonia japonica*

落葉樹林下に生える落葉性の多年草。本州（関東，中部地方以西），四国，九州に分布。茎の高さは30～40cmで，5月ごろ茎頂に大きさ4～5cmの白色花を1個つける。

安佐北区，安佐南区の数か所で記録されている。生育環境は良好なのに，個体数が少ないままであり，採取圧がかかっていると思われる。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

ツルマンリョウ（ツルアカミノキ）（ヤブコウジ科）

*Myrsine stolonifera*

常緑の匍匐性低木。奈良，広島，山口，鹿児島（屋久島），沖縄県に隔離分布。奈良，山口県では国指定の天然記念物になっている。茎は斜上して長さ1.5m。果実は球形で直径5mmくらいで赤く熟する。

安佐北区で記録されている。北向き斜面上部50m×200m程の範囲の3地点に生育しており，個体数に変化はみられない。伐採や下刈り，採取圧などが減少要因となる。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

### フジバカマ（キク科）

*Eupatorium japonicum*

河岸の湿った草地に生える多年草。関東以西に分布。草丈1mあまりで、地下茎は長く横をほう。茎に毛がなく、葉は乾くと芳香がある。

安佐南区の太田川河川敷で記録されているが、大雨や渇水などの影響により変動があるようである。川岸の改修が減少要因となる。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

### ウラギク（ハマシオン）（キク科）

*Aster tripolium*

海岸や河口付近の湿地に生える越年草。北海道～九州に分布。茎は太く直立し、高さ1m内外になる。花は8～11月ごろ、茎の先端に多数集まって咲く。

南区，西区，安芸区で記録されている。安芸区では小河川にみられ、個体数は少ない。海水と淡水が混ざる微妙な環境に生育する。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### コウキヤガラ（カヤツリグサ科）

*Scirpus planiculmis*

汽水域の河口や潟に生える多年草。北海道～九州に分布。高さ30～50cm，走出枝をひいて群生する。

市域の数か所で記録されている。西区の河口に近い川床では，1999年の集中豪雨のために砂が堆積し激減した。河口付近は，護岸工事などによる環境変化が激しく，生育基盤は不安定である。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

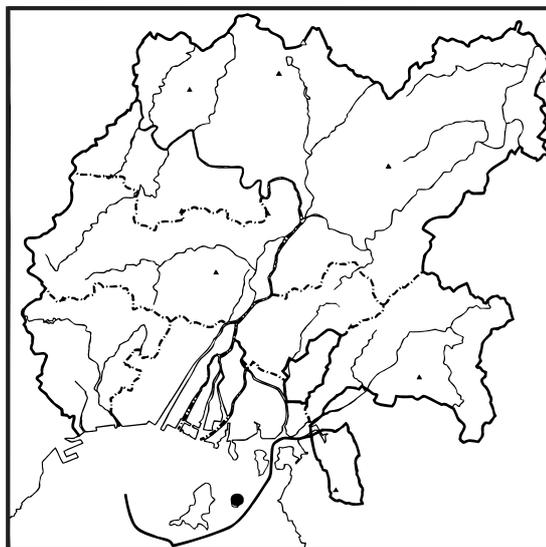
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### アンペライ（ネビキグサ）（カヤツリグサ科）

*Machaerina nipponensis*

湿地に群生する大型の多年草。本州(東海道以西)，九州，沖縄に分布。高さ1～2mに達し，太くて鱗片に被われた長い地下茎をひいて群生する。花は8～10月。

今回の調査で南区で確認された。3m × 3mの池に純群落を形成している。池の干上がり，樹木の成長による日射不足が懸念される。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### キバナノアマナ（ユリ科）

*Gagea lutea*

山野に生える多年草。北海道，本州，四国に分布。地下の鱗茎りんけいから，1枚の葉をつけ，4月上旬，高さ15～20cmの花茎に黄色の花をつける。

安佐北区の栗園に生育しており，以前よりも増えつつあるようである。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### カタクリ（ユリ科）

*Erythronium japonicum*

落葉樹林下で早春に花をつける多年草。北海道～九州に分布。葉は2枚で花茎の下部につく。花は4月上旬，紅紫色で基部にはんもんはんもん斑紋がある。

安佐北区の4カ所で確認されている。いずれも斜面下部で耕作地と山林との境界に100株前後が生育している。1地点では，道路により多くが削り取られた。また，里山利用が行われず，環境が悪化している。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### ミズトンボ（ラン科）

*Habenaria sagittifera*

日当たりの良い湿原に生える多年草。北海道西南部，本州，九州に分布。高さ40～70cm。7～9月に淡緑色で径約3cmの花を多数咲かせる。

安佐南区で記録されているが現状不明。今回の調査で，安佐北区の古い休耕田で，数十個体が確認された。生育環境は，現在のところ安定している。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### エビネ（ラン科）

*Calanthe discolor*

樹林下に生える常緑の多年草。北海道南部～沖縄に分布。草丈約30cm，葉を数枚つけ，中央より花茎を直立させ花を房状につける。

安芸区，安佐北区，安佐南区，東区で記録されている。少なくとも2地点は，開発や自然災害で消失した。採取圧も強い。人工増殖株による再生や移植を行う場合，地域個体群の特性を考慮することがとくに重要である。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### ナツエビネ（ラン科）

*Calanthe reflexa*

山地のやや湿った樹林下に生える多年草。本州～九州に分布。6～8月ごろ，高さ20～30cmの花茎の先端に7～15個の淡紫色の花を咲かせる。

安佐北区の数か所，安佐南区のいずれの自生地も，1株のみである。空中湿度が高く排水の良い所を好み，暑さに弱いため，生育環境は限定される。採取圧も高い。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### セッコク（ラン科）

*Dendrobium moniliforme*

常緑樹林内の樹上や岩上に生える常緑の多年草。本州～沖縄に分布。茎の高さは5～25cm，花は5～6月，大きさ約3cmで白または薄紅色。

安佐北区の数地点及び佐伯区で記録されている。生育適地は比較的多いが，採取圧が高い。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### マメツタラン（ラン科）

*Bulbophyllum drymoglossum*

山地の樹幹や岩上に生育する常緑の多年草。本州（関東以西）～沖縄に分布。茎は細長く横にはう。花は5～6月に先端に1個つく。花の大きさは1cm，三角形で黄褐色。

安佐北区の2カ所で記録されている。1カ所では生育個体は少ないが，近年大きな変化はなく，もう1カ所の状況は不明。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### クモラン（ラン科）

*Taeniophyllum glandulosum*

樹皮着生の多年草。本州（関東以西）～沖縄に分布。葉を持たず，葉緑体のある根だけで生活する。根は灰緑色で扁平，長さ2～3cm。花期は6～7月，花は淡緑色でごく小さい。

安佐南区の生育地では，この10年間大きな変化はない。西区の生育地では，確認されなくなった。空中湿度などの生育要因に敏感。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

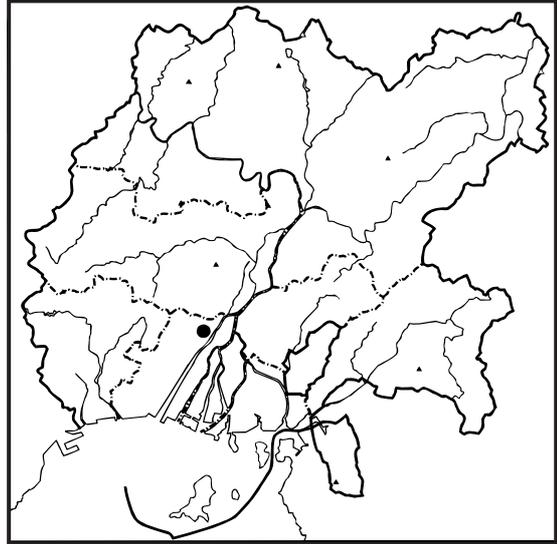
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

キミズ（イラクサ科）

*Pellionia scabra*

亜熱帯系の多年草。本州(東海道以南)～沖縄に分布。高さ30～60cmで茎には毛があり、下部は木質化する。花は4～5月、茎の上部の葉腋につき、小形で目立たない。

西区で記録されている。境内なので環境は維持されているが、参道の脇にあり、個体数が少ないので危険である。清掃による刈り取りの危険もある。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

アズマイチゲ（キンポウゲ科）

*Anemone raddeana*

林縁部に生える多年草。北海道，本州，四国に分布。花は3～5月で，高さ15cm程の花茎の先に1個ずつつく。

安佐北区で1カ所記録されている。50m四方に点在し，1985年からあまり変化はない。林縁部のため，道路工事などにより減少する危険がある。里山の手入れを中止すると，環境が変化し減少する。採取圧も高い。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### ユキワリイチゲ（キンポウゲ科）

*Anemone keiskeana*

竹林や川岸の林内に群生する多年草。本州（近畿地方以西）、四国、九州に分布し、日本特産。根生葉は三角形。花は3月下旬に花茎の先に1個ずつつく。

安佐北区などの数か所で記録されているが、個体数はあまり多くない。太田川の河川敷にあった群生地は河川整備のため消滅し、周辺部にわずかに生育している。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### ツメレンゲ（ベンケイソウ科）

*Orostachys japonicus*

山地の岩上、人家の屋根や石垣の上に生える多肉性の多年草。本州（関東以西）、四国、九州に分布。花穂は長さ7～20cmで、数百個の白色5弁花からなる。

安佐北区の道沿いの石垣や崖などに自生しており、近年大きな変化はない。道路工事や採取圧が減少要因となる。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

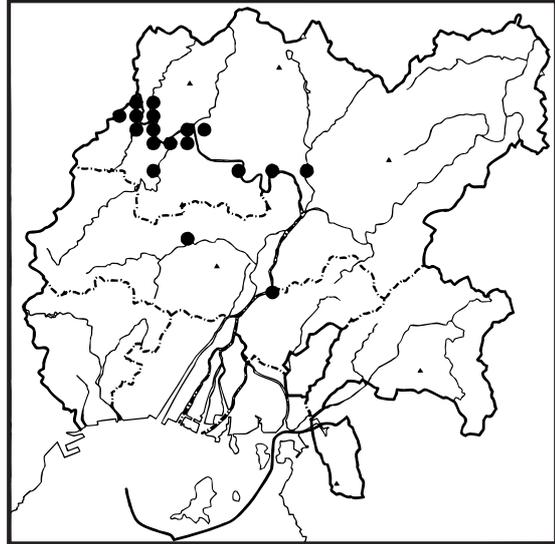
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

ユキヤナギ（バラ科）

*Spiraea thunbergii*

川岸の岩の裂け目や山中の岩礫<sup>れき</sup>地に生える落葉低木。しばしば庭園にも植栽される。本州（関東以西），九州に分布。茎は細く，長さ1～1.5m。4月，前年枝に白色の花を多数つける。

安佐北区，安佐南区の太田川中流域の川岸に生育しているが，河川改修により生育環境が減少している。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

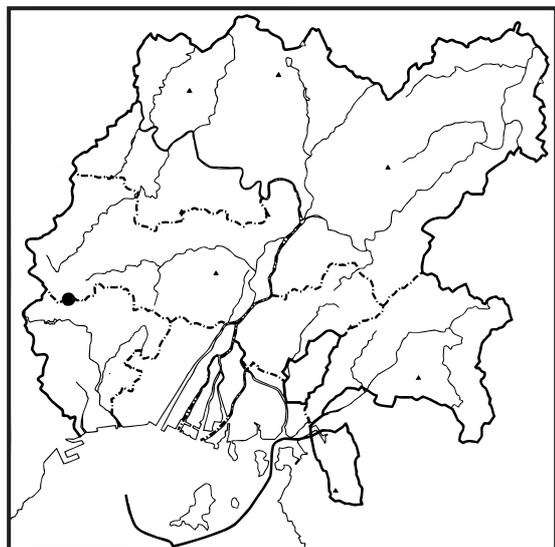
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

イワガサ（バラ科）

*Spiraea blumei*

山地の岩峰や岩壁に生育する落葉低木。本州（近畿<sup>き</sup>以西），四国，九州に分布。高さ0.5～1mで，5月上旬，白い小さな花を20～30個ほど散房状につける。

佐伯区で記録されている。1999年の集中豪雨で，佐伯区の山地は被害を受けたが，本種は頂上に近い岩峰や岩壁の割れ目に根を張って生育しているため，影響はなかった。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

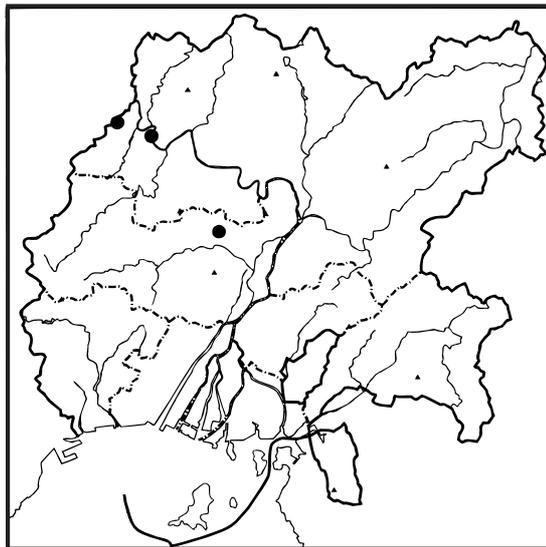
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### ツゲ（ツゲ科）

*Buxus microphylla* var. *japonica*

増水時には水に洗われるような川岸の岩の割れ目などに生える常緑低木。本州（関東から西）、四国、九州に分布。幹は直立し、高さ1～3m。春に淡黄色の花をつける。

安佐北区の太田川河川敷などで記録されているが、数は少なく減少傾向にある。河川改修が減少要因となる。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

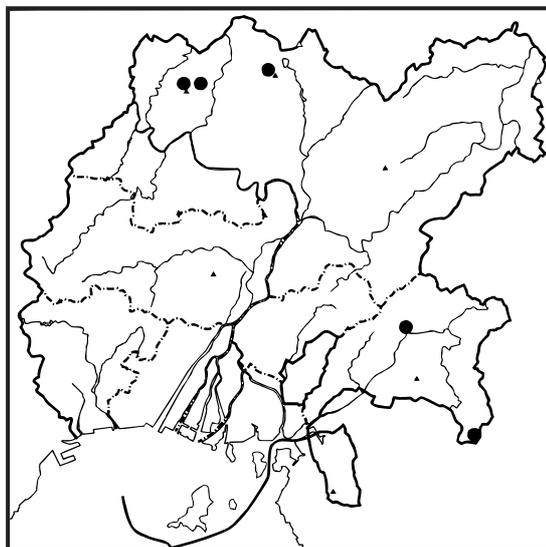
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### ナツアサドリ（グミ科）

*Elaeagnus yoshinoi*

山地に生える落葉低木。本州（兵庫，岡山，広島，山口県），四国（愛媛県）に分布。樹高は2～5m。花は5月上旬。

安芸区で2カ所，安佐北区で3カ所記録されていたが，1カ所は住宅地の開発で消滅し，ほかの現状は不明。林縁などの，日当たりの良い少し乾燥した場所に生育している。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### ゲンカイツツジ（ツツジ科）

*Rhododendron mucronatum* var. *ciliatum*

かこうがん

花崗岩の岩峰や岩壁に生える落葉低木。

中国地方，四国北部，九州北部に分布。花は，3～4月に葉に先立って開き，径3～4cmで赤紫色。

安佐北区，安芸区，南区などにみられ，現状に大きな変化はない。登山道や林道の整備が減少要因となる。採取圧もある。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### ホンシャクナゲ（ツツジ科）

*Rhododendron japonoheptamerum* var. *hondoense*

渓谷の酸性土壤に生える常緑低木。本州（愛知，長野，富山県以西），四国に分布。高さ4m，太いものは直径12cmほどになる。5月ごろ，枝先に赤紫～白色の花を多数横向きに咲かせる。

安佐北区の数か所と安佐南区で記録されているが，掘り採りのため著しく減少している。山林の放置も生育地を荒廃させている。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

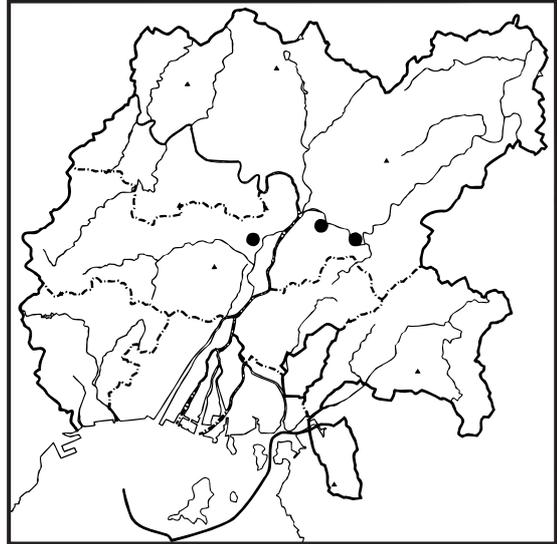
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### シロバイ（ハイノキ科）

*Symplocos lancifolia*

暖地の山麓<sup>さんろく</sup>や社叢<sup>しゃそう</sup>に生える常緑の小高木。本州（近畿以西）、四国、九州に分布。樹形や枝葉の様子はシイノキに似る。夏に白色の花を咲かせる。

安佐南区と安佐北区の2カ所で記録されている。生育地はいずれも社叢<sup>しゃそう</sup>で、現状が維持されている。神社の境内の整備により、雑木として伐採される恐れがある。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

### ムラサキミミカキグサ（タヌキモ科）

*Utricularia uliginosa*

湿原の泥土質の所に生える多年生の食虫植物。北海道～九州に分布。細い糸状の地下茎に捕虫胞と小さな葉をつける。花は8～9月、高さ9～15cmの細い茎につき、淡紫色。

安佐北区の10m四方程度の湿原に多数生育しており、状態は良好である。1985年以前にはほかに2カ所で記録されているが、今回は確認されていない。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

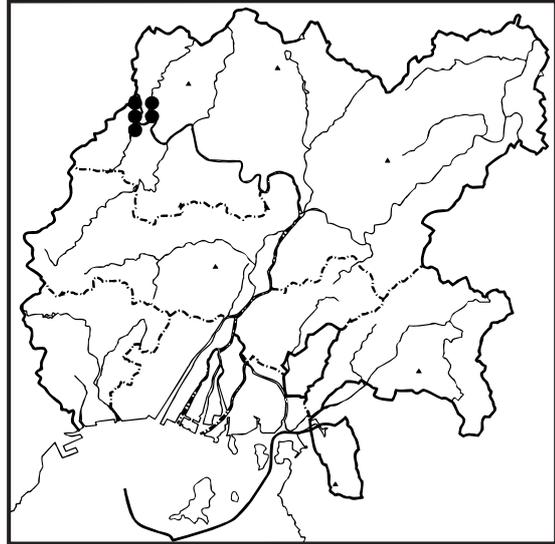
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

ウスバヒョウタンボク（スイカズラ科）

*Lonicera cerasina*

山地の樹林下に生える落葉低木。本州（近畿以西）、四国、九州（宮崎、大分県）に分布。高さ1～2m。花は4～5月ごろ。果実は楕円形で赤く熟し2個が合着する。

安佐北区で記録されており、今回も4カ所で確認した。渓谷に沿った斜面下部あるいは礫の多い崖錐地形上で、開発の手が入らず環境が維持されている。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

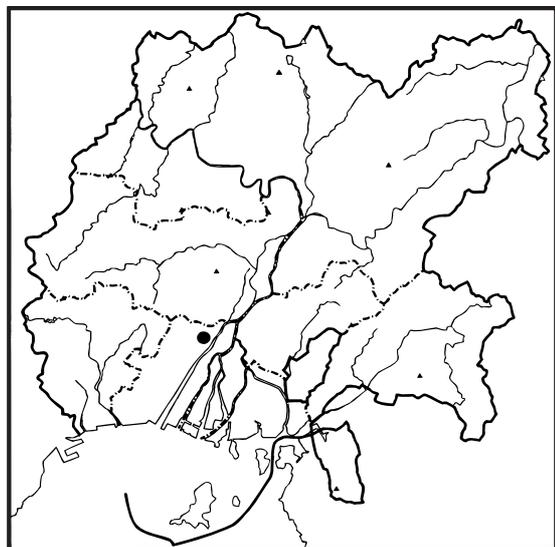
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

ツルマオ（イラクサ科）

*Gonostegia hirta*

熱帯系のややつる状にはう多年草。本州（静岡県、紀伊半島南部、中国地方の一部）に分布。9～10月、葉は対生し、葉腋に花が球状に集まって咲く。果実は黒く熟する。

西区の庭園内に群生している。薬草として栽培していたものが逸出したとの説もある。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

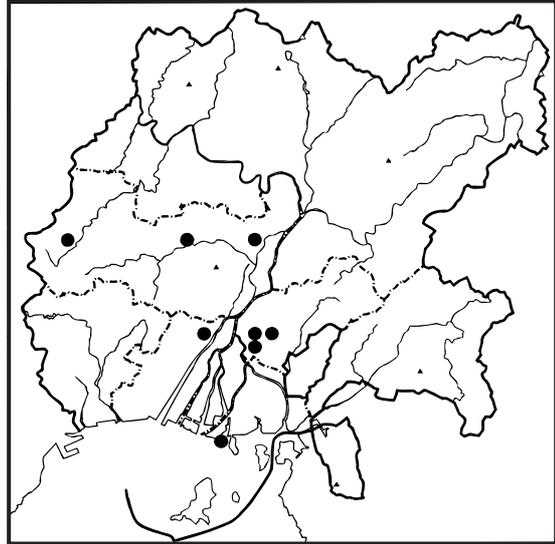
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

### オガタマノキ（モクレン科）

*Michelia compressa*

常緑高木。本州（関東南部，東海，紀伊半島），四国，九州に分布。コブシに似るが小さく，葉は常緑で光沢がある。花は2～4月。

数か所で記録されているが植栽が多い。二葉山と元宇品もとうしなのものは自生である。安佐南区あさそうの社叢しゃそうのものは植栽の可能性が高いが，生育状態は良好である。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

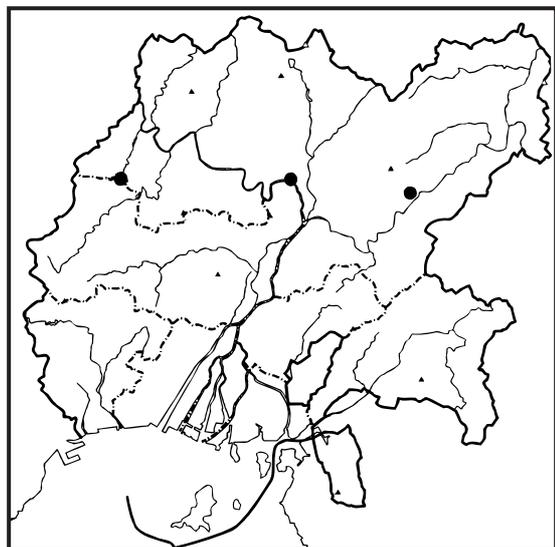
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

### ナガミノツルキケマン（ケシ科）

*Corydalis raddeana*

山中の半日陰地や林縁に生える一年草または二年草。北海道，本州，九州に分布。茎は分枝して長さ1mに達し，横に広がる。花は淡黄色で8～9月に咲く。

安佐北区の数か所及び安佐南区に生育している。一部の自生地は河川改修などによりなくなったと思われるが，ほかは安定している。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

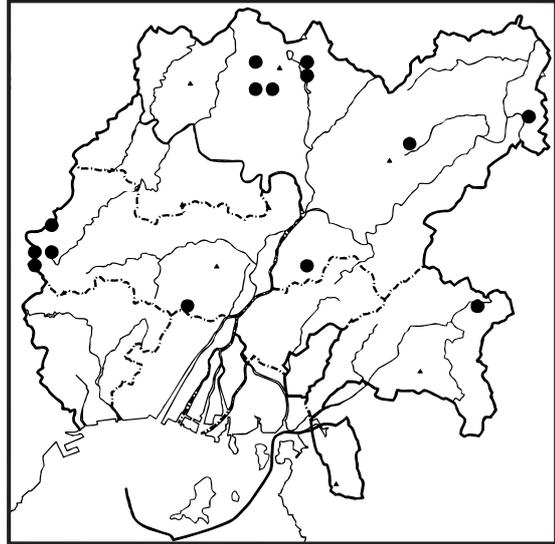
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

アテツマンサク（マンサク科）

*Hamamelis japonica* var. *bitchuensis*

渓谷に多い落葉小高木。本州（中国地方）、四国に分布。花は早春に葉に先立って開き、花弁は黄色で長さ12～15mm。マンサクに比べ、葉の両面の星状毛が多い。

安佐北区、安佐南区などに広く分布。山地の渓谷などに生育しており、存続基盤は安定している。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

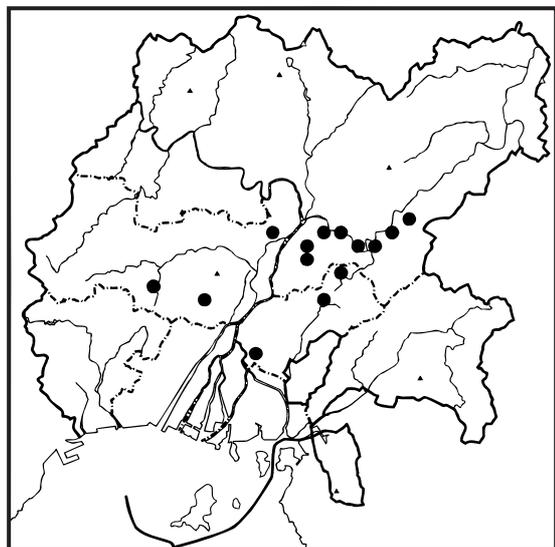
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

シイモチ（モチノキ科）

*Ilex buergeri*

暖地に生える常緑の小高木。本州（中国地方）、九州に分布。樹高は10m程度になる。雌雄異株で、花は5月ごろ。果実は赤く熟する。

安佐北区、安佐南区、東区のそれぞれ数が所で記録されている。生育地はいずれも社叢しゃそうであり、存続基盤は安定している。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

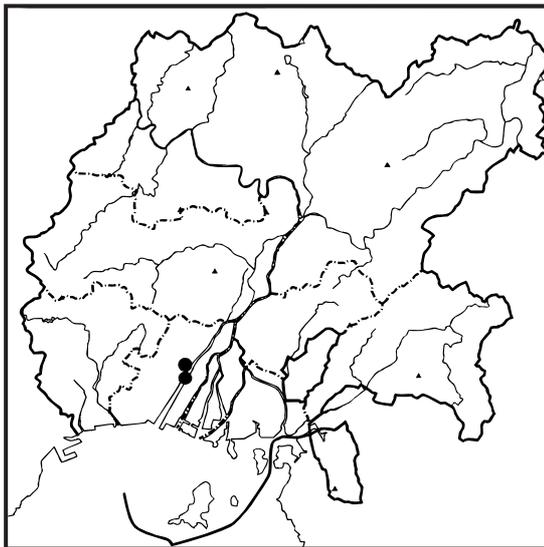
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で持続基盤が比較的安定している

### ハマサジ (イソマツ科)

*Limonium tetragonum*

海岸に生える越年草。本州(宮城県以南)、四国、九州に分布。花茎は高さ50~80cmに達し、ほうき状に分枝し、先端に長さ5~6mmの黄色の花をつける。

西区太田川放水路の砂泥地に群生。市街地の河川に群生するのはめずらしい。河川の地形変動や他種との競合が減少要因となるが、現状の生育基盤は安定している。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

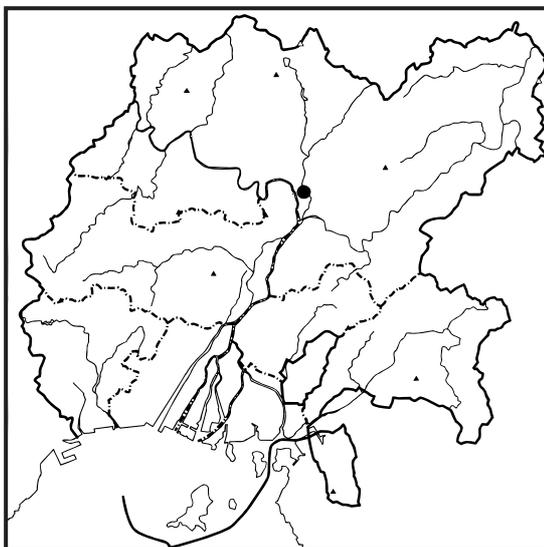
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で持続基盤が比較的安定している

### ミゾコウジュ (シソ科)

*Salvia plebeia*

暖地のやや湿った道端などに生える越年草。本州、四国、九州に分布。花は5~6月、小さく淡紅色。

安佐北区で1カ所新たに確認された。<sup>さんろく</sup>山麓、<sup>がけ</sup>鉱山跡地の狭い湿地に数十個体が生育している。付近は立ち入り禁止になっており、生育状態は良好である。崖や急斜面の下で、崩落によって生育地が埋まる危険がある。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

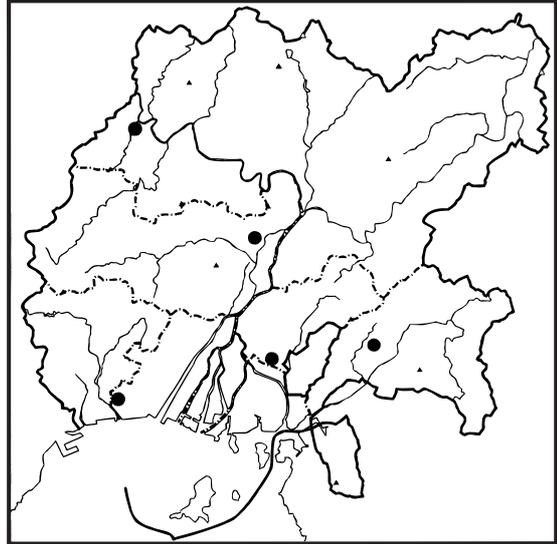
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

イヌノフグリ（ゴマノハグサ科）

*Veronica polita* var. *lilacina*

道端や畑，石垣などに生える越年草。日本全土に分布。茎は下部で分枝して地面をはい，長さ5～20cm。花は3～5月ごろに開き，淡紅紫色。

市域に広くみられ，近年とくに変化はない。路傍や石垣の管理がされなくなると，丈の高い植物に生育を阻害されることがあるが，絶滅を招く要因はみられない。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

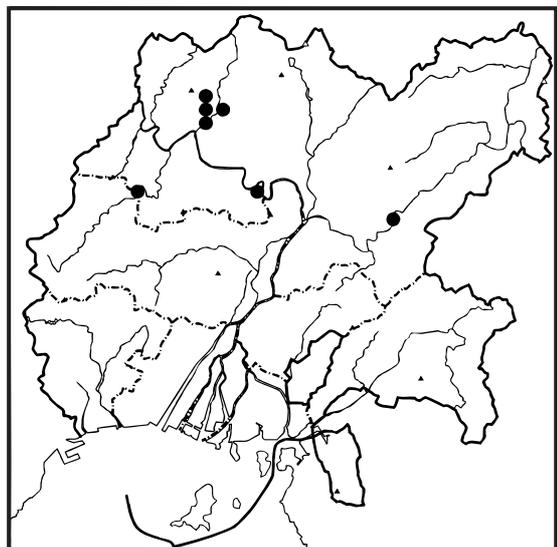
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

スズムシバナ（キツネノマゴ科）

*Strobilanthes oliganthus*

<sup>さんろく</sup>山麓の林内や路傍などに生える多年草。本州（近畿<sup>き</sup>地方以西），四国，九州に分布。茎は高さ30～60cm。8～9月に淡紫色の花をつける。

安佐北区の数か所で記録されているが，消滅した産地もある。生育地は人里で，開発の危険はあるが，生育基盤は比較的安定している。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

### ヤマヒョウタンボク（スイカズラ科）

*Lonicera mochidzukiana* var. *nomurana*

山地に生える落葉低木。本州（東海道以西）、四国、九州に分布し、しばしば、蛇紋岩地帯や石灰岩地帯に生育。高さ1mくらい。5月に、白色の花を2個ずつつける。果実は6～7月に赤く熟する。

安佐北区で記録されているが、現状は不明。開発の及ぶような場所ではないので生育基盤は安定している。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

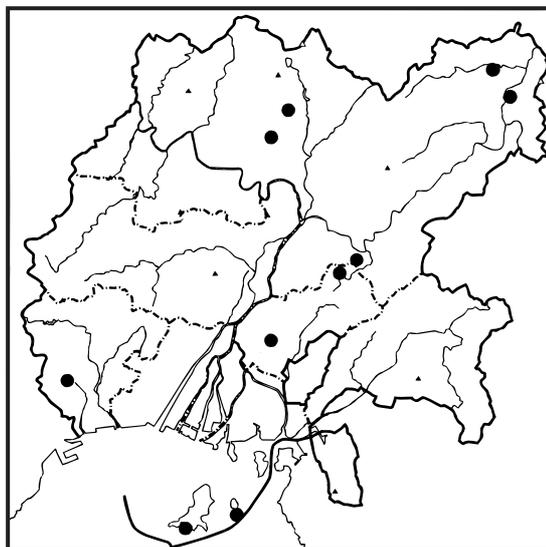
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

### キキョウ（キキョウ科）

*Platycodon grandiflorum*

日当たりの良い山地の草地や路傍などに生える多年草。日本全土に分布。茎は高さ40～100cm。8～9月ごろ、青紫色の鐘形の花をつける。

安佐北区などで記録されている。詳細な分布調査が行われていないので、ほかの生育地の状況は不明。林縁などに点在し個体数も比較的多いので、存続基盤は安定している。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

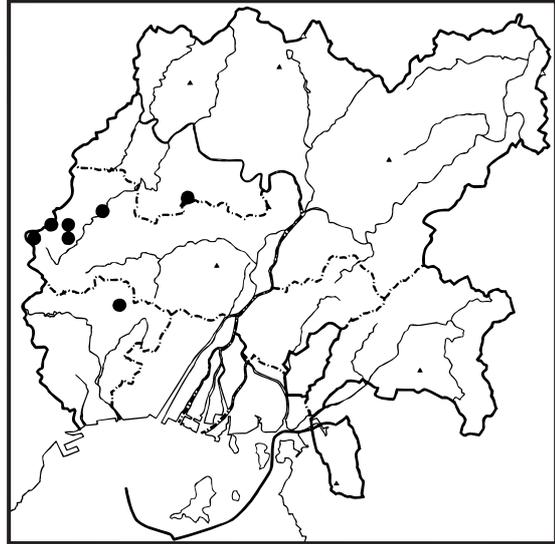
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

コウヤマキ（スギ科）

*Sciadopitys verticillata*

酸性土壌で、母岩が露出する急峻な地形きゆうしゆんに生える高木。本州（福島県以南）、四国、九州に分布。高さ40mに達する。葉は厚く、2葉が融合しているのが特徴。

安佐南区を主体に多くの記録があるが、ほとんどは植栽と思われる、情報は十分ではない。東郷山の南側の谷（大谷）から自生の記録があるが、確認できなかった。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

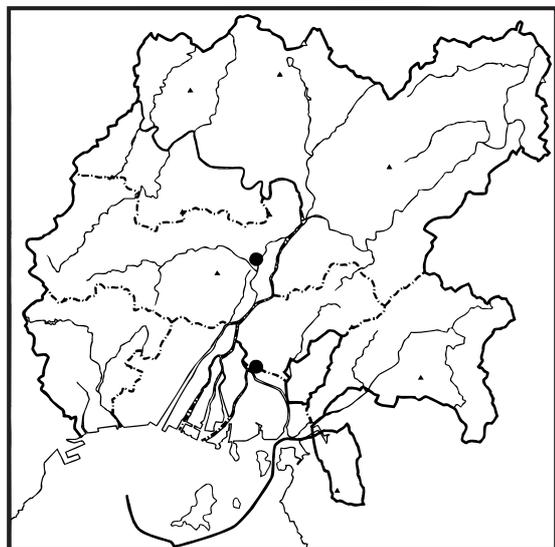
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

ミクリ（ミクリ科）

*Sparganium erectum* ssp. *stoloniferum*

池沼、河川、水路等の浅い水域に生える多年生の抽水植物。北海道～九州に分布。地下茎は横走して群落を作り、茎は直立して高さ0.5～2m。花は6～8月。

1992年安佐南区古川で記録されているが、河川改修により消失したと思われる。東区の産地も不明。ため池などの調査が不十分であり、現状は不明。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

### クマガイソウ（ラン科）

*Cypripedium japonicum*

林床に群生する落葉性の多年草。北海道（西南部）～九州に分布。高さ30～40cmで、茎の上部に扇形の葉を2枚つける。4～5月、茎頂に1個、径8cmほどの花をつける。

安佐北区の1カ所で記録されていたが、採取圧によって15年前ごろからみられなくなった。現在確実な自生地は確認されていない。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

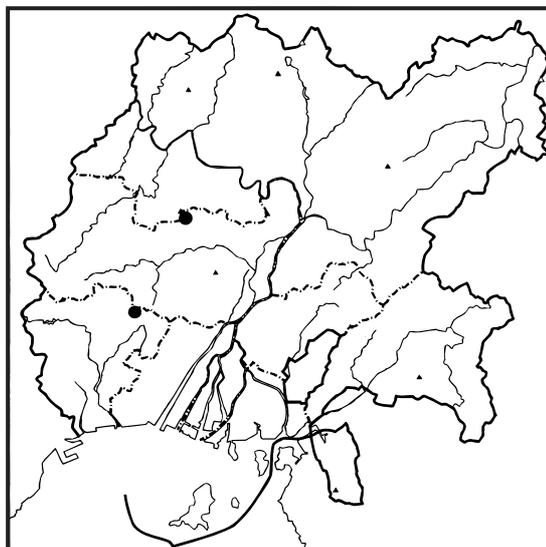
### キンラン（ラン科）

*Cephalanthera falcata*

さんりょう

山稜や丘陵の明るい疎林下に生える落葉性の多年草。本州，四国，九州に分布。高さ30～50cmで、4～6月にかけて、茎の先端に黄色い花を3～12個つける。

安佐南区，佐伯区で記録されているが、安佐南区では確認できなかった。佐伯区の状況も不明で、現在確かな自生地の情報はない。



### 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### キエビネ（ラン科）

*Calanthe sieboldii*

林床に生える常緑の多年草。本州（紀伊半島，中国地方），四国，九州に分布。高さ50cmに達し，エビネに似るが，大型。花は4～5月，鮮やかな黄色。

1987年に安佐北区で1個体記録されたが，その後みられない。採取圧が強い種で全国的に減少しており，市域での現状は不明。



### 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ムギラン（ラン科）

*Bulbophyllum inconspicuum*

常緑樹林内の樹上，岩上に生える常緑の多年草。本州（関東以西），四国，九州に分布。根茎は横にはい，先端に肉厚の葉を1枚つける。6～7月に短い花茎を出し，1個の花をつける。

1987年に，安芸区，安佐北区で少数個体が記録されているが，それ以後確実な情報は得られていない。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

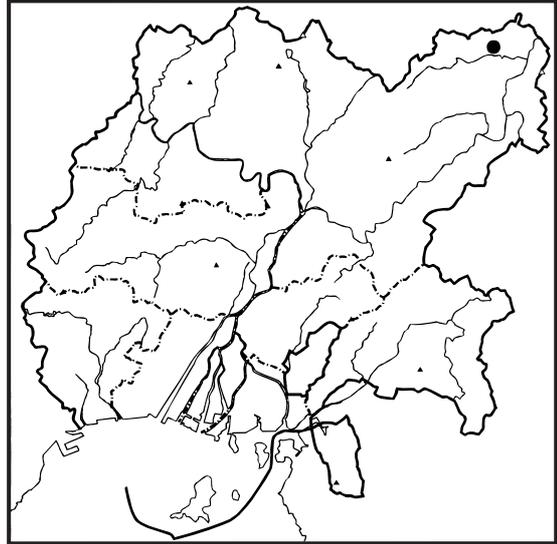
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

### ヌカボタデ（タデ科）

*Persicaria taquetii*

湿地に生える一年草。本州，四国，九州に分布。分枝が多く，茎の下部は地中をはい，上部は直立して高さ20～40cm。

安佐北区で1カ所の報告があるだけで現状不明である。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

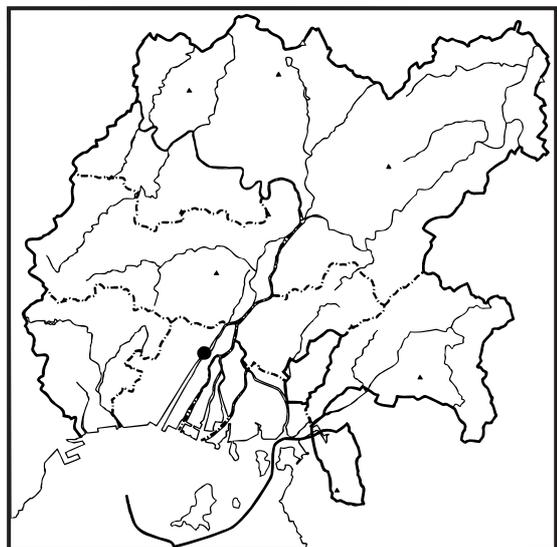
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

### ヒロハマツナ（アカザ科）

*Suaeda malacosperma*

塩湿地に生える一年草。本州(兵庫，岡山，広島県)，九州(熊本，長崎県)に分布。茎は高さ15～35cm。葉は肉質で，幅2mm以上になる。初め緑色であるが後に赤紫色となる。

1995年に西区の太田川河川敷で初めて確認されたが，橋の建設により失われた。その後，確認されていない。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

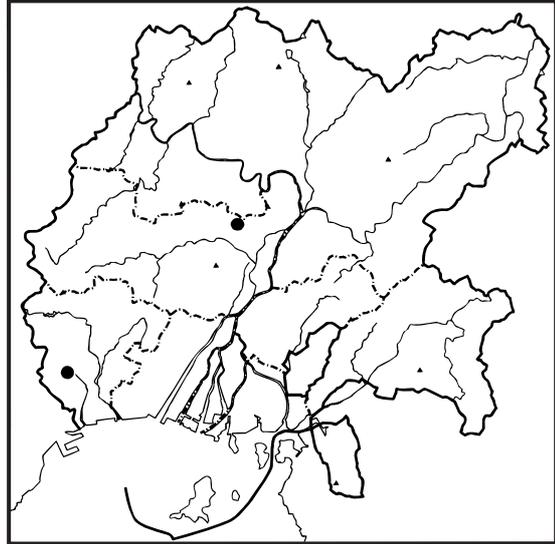
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

オキナグサ（キンポウゲ科）

*Pulsatilla cernua*

日当たりの良い草地や河原に生える多年草。本州，四国，九州に分布。植物全体に毛が多い。4～5月，10cm内外の花茎の先端に鐘形で暗紫色の花をつける。

安佐南区，西区，佐伯区で記録されているが，現在は確実な産地がない。放牧や草刈りなど人為的な管理下で生育環境が維持される。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

コイヌガラシ（アブラナ科）

*Rorippa cantoniensis*

水田や小川の岸などの湿った場所に生育する一年草または越年草。本州（関東以西），九州に分布。茎は下部で分枝して直立し，高さ10～40cmになる。花はごく小さく黄色で，4～5月に咲く。

安佐南区で採取された標本があるが，近年の自生確認記録はなく，現在の状況は不明。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

### イヌハギ(マメ科)

*Lespedeza tomentosa*

河原や沿岸部の砂地に生える多年草。本州以南に分布。茎の下部は木化し，高さ60～150cm。花は7～9月に開き帯白色。

安佐南区で記録されているが，現状は不明。河川改修や護岸工事により消失したと思われる。



## 種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

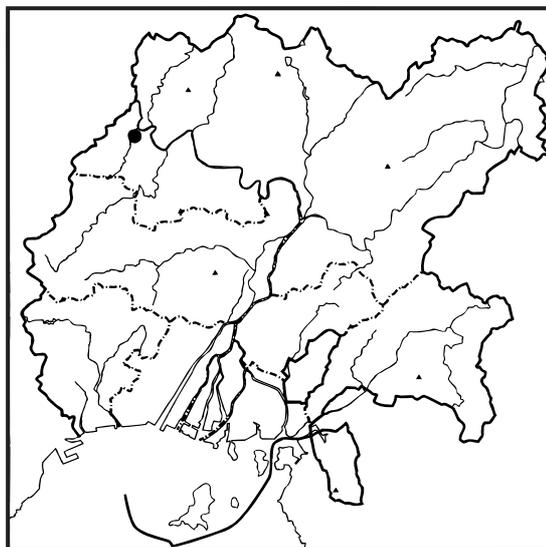
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

### ウドカズラ(ブドウ科)

*Ampelopsis cantoniensis*

亜熱帯系の落葉つる性木本。本州(紀伊半島以西)，四国，九州(屋久島まで)に分布。枝には皮目がある。花は6～8月，小さくて黄緑色。果実は秋に赤く熟する。

安佐北区の溪谷で記録されているが，その後の情報がなく現状不明。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

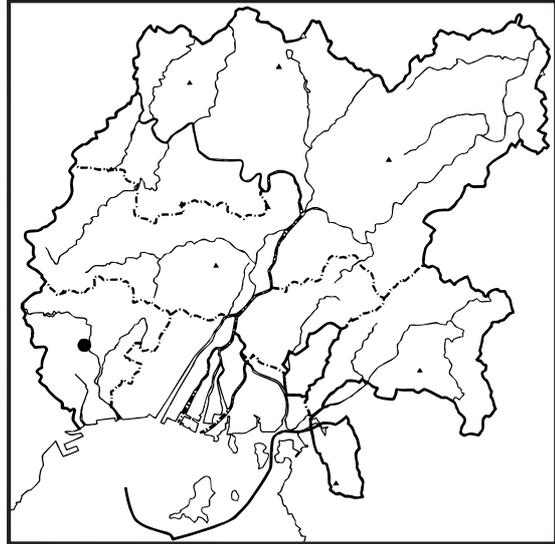
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

ミズマツバ(ミソハギ科)

*Rotala pusilla*

水田や湿地に生える小型の一年草。本州(中部以南)に分布。茎の基部は時折横になり、すぐに立ち上がる。高さ3~10cm。花は淡紅色で小さく、8~10月ごろに咲く。

安佐南区、佐伯区などで記録されているが、生育特性や分布についてほとんど調査されておらず、現状は不明である。



種子植物

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

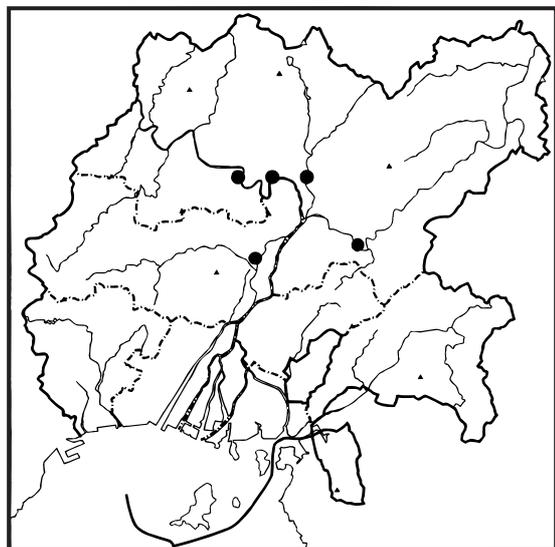
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

カワヂシャ(ゴマノハグサ科)

*Veronica undulata*

川岸や水田などの湿った場所に生える越年草。本州以南に分布。茎は丸くて柔らかく高さ30~50cm。花は5~6月ごろに開く。

安佐北区及び安佐南区の川岸など、各地に点々と生育しており、大幅な変化はないものと思われる。確認情報が不十分であるため、情報整備が必要である。



## 種子植物

### 環境指標種

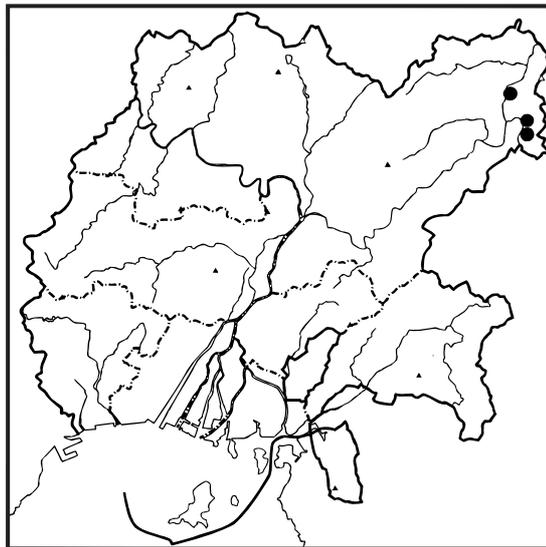
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

#### ヌマガヤ（イネ科）

*Moliniopsis japonica*

山野の湿原に生える多年草。北海道～九州に分布。高さ30～100cmの剛直な感じで、大きな花序に長さ1cm内外の小穂をごくまばらにつける。

安佐北区，安芸区の湿原に自生する。ヌマガヤ湿原の主な構成種で，サワギキョウやミズトンボ，サギソウなどの湿生植物が豊富に生育する湿原の環境指標になる。



## 種子植物

### 環境指標種

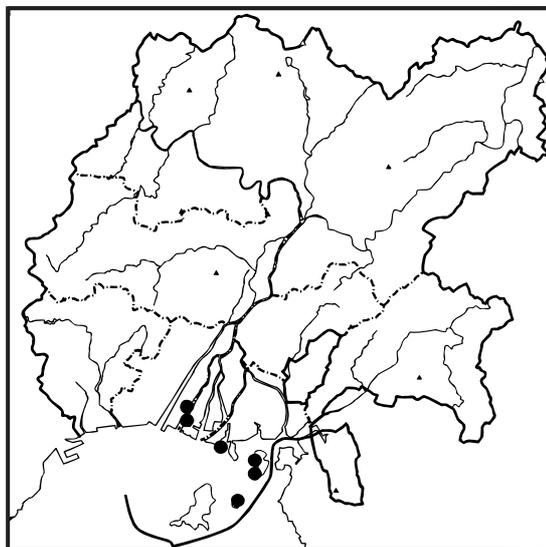
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

#### トベラ（トベラ科）

*Pittosporum tobira*

海岸の崖地がけに生える常緑低木。本州(新潟，岩手県以南)～沖縄に分布。高さは2～4m，時に8m。花は5月上旬。

広島湾内の島しょうじな，宇品島もとうじな(元宇品)，金輪島にのしま，似島がけ，峠島の海岸崖地などに生育している。「マサキ - トベラ群集」のみられる自然度の高い海岸崖地がけの環境指標となる。



種子植物

環境指標種

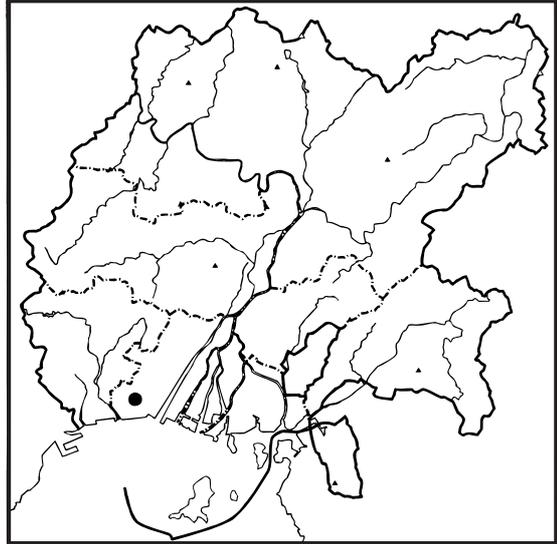
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

マルバシャリンバイ（バラ科）

*Rhaphiolepis indica* var. *umbellata*

暖地の海岸に生える常緑の低木。本州（中部以西）、四国、九州に分布。幹は高さ1～4m、枝は車輪状に出る。花は5月で、枝先に円錐花序をつける。

西区の1カ所で記録されているが、のり面工事のため消失した。海岸付近の崖地<sup>がけ</sup>に生育するため、自然海岸線が残されている地域の環境指標となる。



種子植物

環境指標種

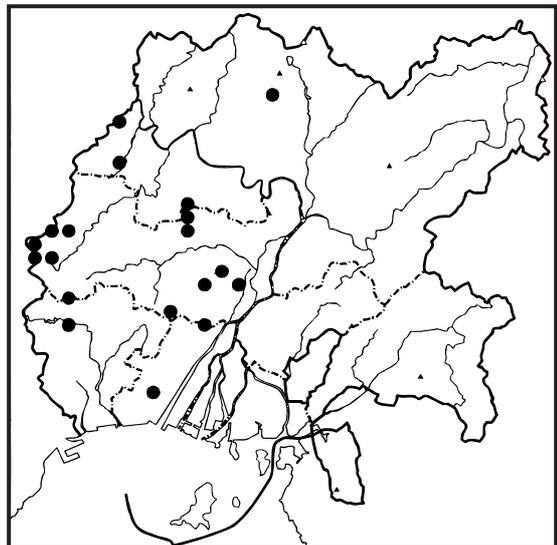
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

セトウチウンゼンツツジ（シロバナウンゼンツツジ）（ツツジ科）

*Rhododendron serpyllifolium* var. *albiflorum*

半常緑の小低木。瀬戸内海沿岸に分布。枝は細くよく分岐する。春先、枝先に白い花をつける。

安佐南区、佐伯区の花崗岩地帯<sup>かこうがん</sup>を中心に、市域に広くみられる。母岩が露出しているような、日当たり良く湿り気もある山腹に生育する。



## 種子植物

### 環境指標種

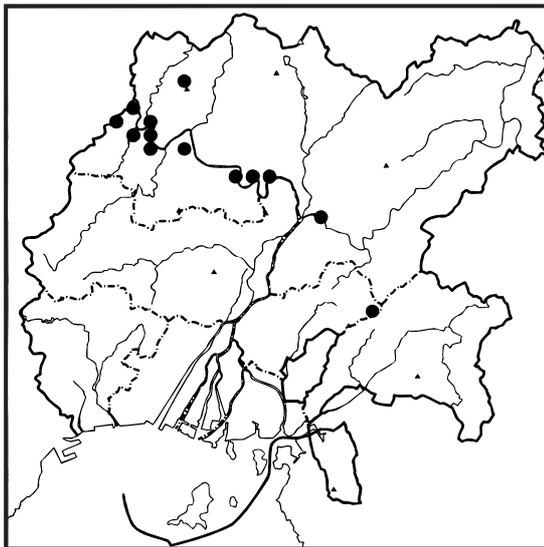
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

#### キシツツジ (ツツジ科)

*Rhododendron ripense*

大きな河川の川岸で、増水時に水に浸かる岩上に生える半常緑の低木。本州（岡山県以西）、四国、九州（大分県）に分布。高さ1～1.5m でよく分枝する。花は赤紫色で4～5月に咲く。

安佐北区を主体に、太田川の中流域などにかかなりの個体数が生育する。河川改修やダム建設によって減少している自然の河床や河岸の環境指標となる。



## 種子植物

### 環境指標種

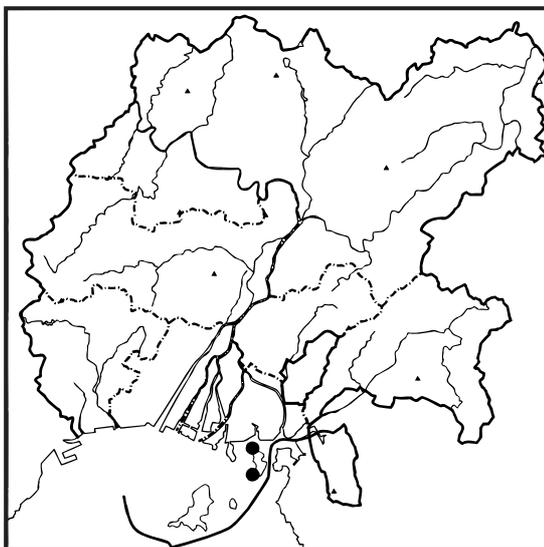
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

#### ハマゴウ (クマツヅラ科)

*Vitex rotundifolia*

暖地の海岸砂地に生える小低木。本州、四国、九州に分布。茎は伏臥または斜上する。全体に灰白色の軟毛がある。7～9月に枝先に円錐花序をつくり、花は紫色。

今回の調査では確実な自生は確認されおらず、現状不明。開発や強度の踏みつけにより荒らされていない、自然海浜の環境指標になる。



種子植物

環境指標種

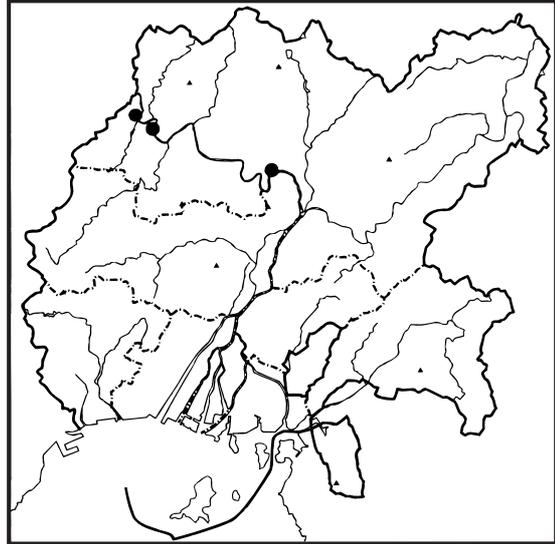
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

アオヤギバナ（キク科）

*Solidago yokusaianum*

大きな河川の増水時に水に浸かる岩上に生える多年草。本州，四国，九州に分布。高さ15～30cm。花は9～10月，アキノキリンソウの花に似ているが，より小型で密生する。

安佐北区の太田川中流域にみられる。岩間にしっかりと根を張り，洪水で流されることなく，個体数の変動は少ない。自然の河床や河岸の環境指標となる。



種子植物

環境指標種

その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

フクド（ハマヨモギ）（キク科）

*Artemisia fukudo*

満潮時，海水に浸かる河口付近の泥地に生える多年草。本州（近畿地方以西），四国，九州に分布。高さ30～90cmで群生する。花は9～10月ごろ，側枝につく。

西区の太田川放水路河川敷で，ハママツナやハマサジ等とともに塩生植物群落を形成している。埋め立て，護岸工事などにより減少している塩湿地の環境指標となる。

